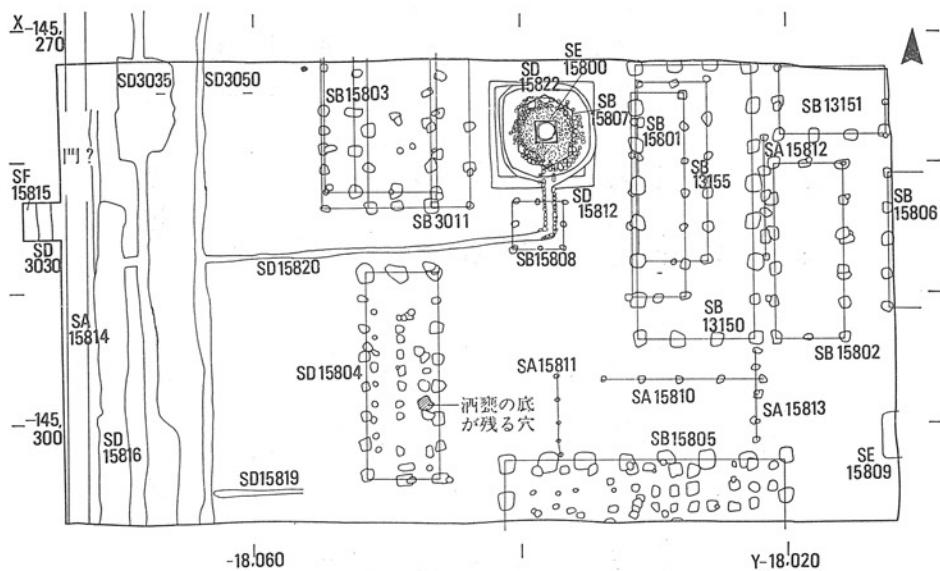


奈良・平城宮跡

- 1 所在地 奈良市佐紀町・法華寺町
- 2 調査期間 一 一九九三年(平5)四月～六月、二 一九九三年一二月、三 一九九三年六月～一九九四年三月、
四 一九九四年一月～三月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 代表 町田 章
- 5 遺跡の種類 宮殿・官衙跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～平安時代初期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
- 一 造酒司地区(第二四一次調査)
- 調査区は内裏の東方で、東院の北西部に位置する。駐車場拡張に伴う調査で、既発掘の第二二・一八八次調査区に南接する。第二二・一八八次調査では覆屋をもつ井戸や、酒ないし水を入れたとみられる大型の甕(大甕)が発見され、遺物としては「酒司」、「酢」などの墨書き土器があり、さらに五〇〇点を越える木簡の内容などから、この場所を造酒司と推定した(奈良国立文化財研究所『平城宮木簡』二)。



第241次調査遺構図

調査の結果、遺構・遺物とともに既往の知見を裏付けることとなり、

造酒司跡の蓋然性はさらに高まった。

検出遺構は掘立柱建物一一棟、掘立柱塀四条、溝九条、井戸二基などで、それらは奈良時代初期から後期にいたるまで三時期に大別されるが、基本的な性格を変えることなく存続したことが判明した。北接する遺構群とは一連で、官衙を区画するような施設はない。したがって第二二二・一八八次調査で確認した官衙は今回の調査区全域に及び、南限と東限が未確認ながら、東西六〇m以上、南北九〇m以上という広大な面積を占めることになる。

今回の調査でも、甕据え付け穴を伴う特徴的な建物を検出した。計五棟あり、どの時期にも甕を伴う建物と伴わない建物が並存し、前者は酒の醸造・貯蔵などの施設、後者は精米などの作業場もしくは管理施設と推定できる。また井戸 SE一五八〇〇は井戸枠の周囲に同心円状の石敷をもち、六角形の覆屋を備え、これを取り囲むよう大型の建物が配置されるなど、他とは異なった特徴をもつており、造酒司の中でも特殊な酒の醸造に関わる井戸であつた可能性がある。

木簡は合計四五点出土した。遺構別の内訳は北の第二二二次調査区から南流する溝 SD三〇三五から三四点、SD三〇三五を東に付け替えた溝 SD三〇五〇から八点、井戸 SE一五八〇〇の埋土から一点、この井戸から西へ流れる溝 SD一五八二〇から一点、建物 SB三〇一一の柱抜取り穴から一点である。

二 平城宮東辺地区（第二四二一・三次調査）

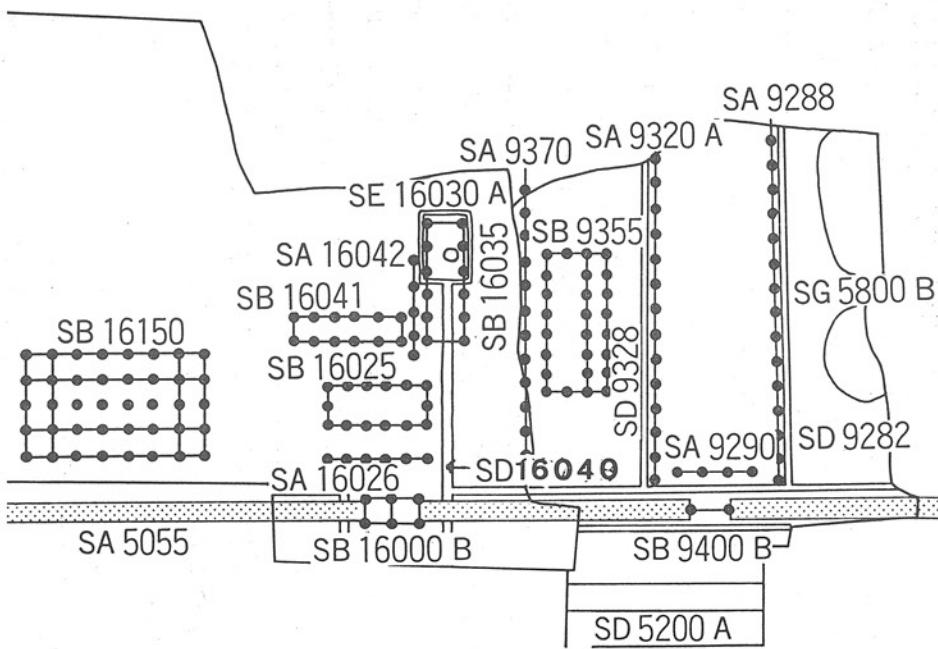
調査は河川改修に伴うもので、平城宮東辺から東へ東二坊坊間路想定位置を横切る形で約四三m、幅二mほどのトレンチを入れた。

調査の結果、東二坊坊間路の西側溝は確認し得ず、東側溝想定位置に幅約七m、深さ一・八mの大規模な南北溝を検出した。堆積層は三層に分かれ、その下層から平安期の土器のほか中世以降の瓦も含まれており、溝の存続期間はかなり長いとみるべきである。

三 東院地区（第二四三・二四五一・一次調査）

平城宮の東張り出し部は東院と称され、かつてその東南隅の調査において池を中心とした庭園が検出され、宴遊施設があつたことが知られる。一九九三年度から、この庭園とその周辺建物及び築地大垣を復原整備することとなり、その事前調査として庭園の西隣り、東院の南端中央部にあたる場所の発掘を行なった。

調査の結果、南面大垣とそれに開く門、道路一条のほか、掘立柱建物一七棟、礎石建物八棟など多数の遺構が重複して検出された。古墳時代の埴輪塚を除いて、奈良～平安初期の間にA～G期の七期に及ぶ変遷がある。東院の庭園の区画は本調査区の東方で完結しており、直接の関係はない。A・B期（奈良時代前半）には、北を单廊、塀で区画された東西に長い区画をもち、大規模な南北棟建物を中心とする遺構で、C期（平城還都直後頃）になると、区画が取り扱われ建



第 243・245-1 次調査D期の遺構（右半分は第 120 次調査）

物配置も大きく変わり、利用状況の変化を窺わせる。また、東院部分の南の限りは当初掘立柱塀であったが、後に同じ位置で築地大垣に造り替える（B期）。この南面に開く門SB一六〇〇〇が今回新たに検出された点も注目される。ちょうど東院部分の中央にあたり、当初は掘立柱塀に開く門SB一六〇〇〇Aで、築地大垣になると二間×一間の掘立柱の門SB一六〇〇〇Bとなり、更に礎石建ちの五間×二間の門SB一六〇〇〇Cに改修される（E期）。これを宮城十二門の一つと考えるべきか否かは、今後の検討課題となろう。

の井戸枠の墨書一八点、同井戸の掘形から一点、ほかはいずれも門
S B一六〇〇〇Cの下層で検出した南北溝 S D一六〇四〇からの出
土である。井戸 S E一六〇三〇は一辺五mの掘形の中に幅約一〇cm、
厚さ約一〇cmの檜の板材を縦に二〇枚並べて円形の井戸枠をつくつ
ている。井戸枠のうち一八枚には下端を示す「本」の墨書があり、
そのうち三枚には「鑿／綴／鑿」「隠□」「□／□墨／隅」の習書が
ある。S D一六〇四〇は井戸 S E一六〇三〇から南へ流れ、大垣か
らさらに南流する石組の溝で、E期に整地土で埋められる。おおよ
その年代として、D期は天平神護／神護景雲頃、E期は宝亀年間頃
と推定している。

四 東院庭園地区（第一四五一一次調査）

この調査も三と同じく、東院庭園復原の事前調査で、かつての未

発掘部分を対象とし、池の北側と東面大垣にかかる部分にトレンチを入れた。調査の結果、東面大垣に関するデータを得るとともに、大垣築造以前の数条の南北溝を検出し、また後期の池への導水施設などを確認した。

木簡は一二点で、東面大垣の西雨落溝の側石抜取穴 SK-16310 八から一点、他は東面大垣の西雨落溝に切られる、先行の南北溝 SD-16300からの出土である。

8 木簡の积文・内容

一 造酒司地区 (第二四一次調査)

南北溝 SD-16300

- (1) 「造酒司召 令史 正召 使三宅公子」 250×24×3 011
- (2) 「恐カ □々謹申大棕」
- 「八月十日□日□□□」 (133)×22×1 019
- (3) 「▽伊勢国飯野郡黒田郷」
- 「▽加知」 (156)×24×3 033
- 「▽丹波国氷上郡忍伎郷朝鹿里」 〔麻〕□マ小虫三斗
(鉛書) (275)×30×5 039
- (4) 「▽穴臣小□調鈎二十九」
- 「▽七四□□□」 (針書) (13) 149×21×5 032
- (5) 「▽丹後国丹波郡大野郷須米石マ足五斗▽」 343×(20)×7 031
- (6) • 「▽紀伊国安諦郡県里辛金打赤兄戸同□□」
- 「▽ 靈龜一一年十月」 (170)×16×6 039
- (7) 「▽无漏郡進上二二□□一一百張▽」 146×20×4 031
- (8) 「大辟里赤米五斗▽」 (170)×17×6 039
- (9) 「×籠十五斤 和銅四年四月▽」 (120)×22×6 039
- (10) 「▽左大舎人他田人万呂」 〔去カ〕
- 「▽刑部子君万呂□一貫」 128×25×2 032
- (11) 「▽讚岐国奈賀×」
- 「▽□丈マ□□」 (94)×14×4 039
- (12) 「海部郷京上赤春米五斗▽」 (188)×29×5 039
- 「矢田マ首万呂 稲春 ▽」

井戸SE-1五八〇〇

播磨介□

(115)×10×3 081

- (14) • 「▽美作国英多郡

・「▽白米五斗

(112)×17×3 039

- (5) • 「▽三保里戸主矢田マ□同マ□君

・「▽堅魚八連

(148)×17×4 033 *

荷札木簡が比較的多く、品目をみると「酒米」「赤米」「赤春米」など酒づくりの材料としての米が含まれる点が特徴である。また(1)

の召文木簡からみても、発掘地を造酒司とする推定はかなり確実なものと言えよう。二条の溝はSD三〇三五中の木簡の年紀は和銅・靈

亀と古いが、郷里制や郷制のものもあり、長期間存続していた可能性が高い。

二 平城宮東辺地区 (第一四一) 一次調査)

(6) 本

(1717)×222×134 061

井戸SE-1六〇〇〇

(1717)×222×134 061

(1) 日□

(53)×17×4 081

三 東院地区 (第一四三・一四五) 一次調査)

(1) 南北溝SD-1六〇四〇

(1) 「大伴門友造十上□木方呂
170×22×5 011 *

(2) 「大伴門友造十上□村粟田」

(3) 「大伴門友造十上□木方呂
170×22×5 011 *

(4) 東院庭園地区 (第一四五) 一次調査)

(5) 南北溝SD-1六三〇〇

(6) ×位下川辺朝臣□

091

091

091

091

9

関係文献

奈良国立文化財研究所『一九九三年度平城宮跡発掘調査部発掘調

同『平城宮発掘調査出土木簡概報』二九（一九九四年）
概報（一九九四年）

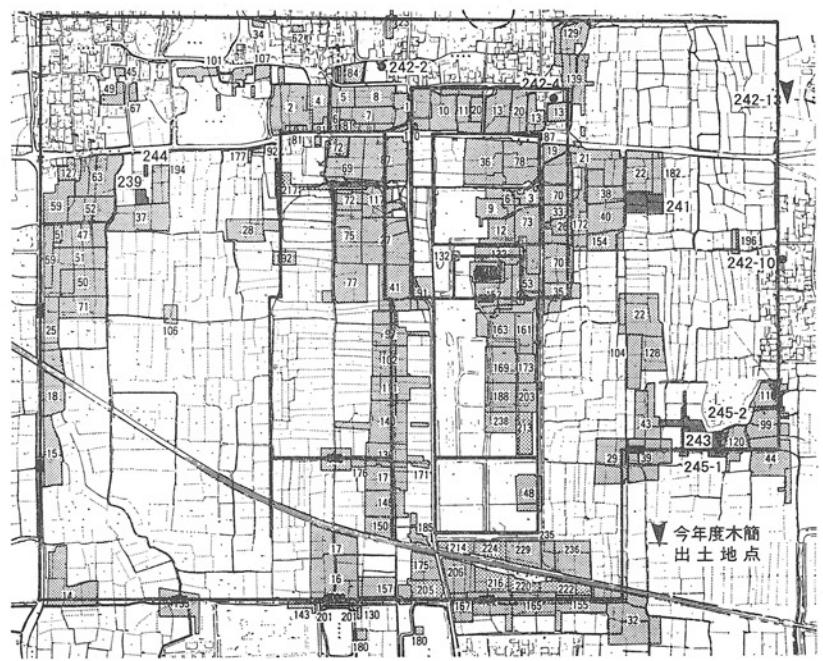
(寺崎保広)

「錦部鳥養
坂上馬養
『驗丈新惠廻述』 (169) × (48) × 4 019
右□□

| | | |
|-----|-----|---|
| (2) | 狩 | ・ |
| | 7 7 | 7 |
| | □ □ | 他 |
| | □ 部 | 田 |
| | 万 忍 | 国 |
| | 呂 人 | 足 |
| | 7 穴 | 綾 |
| | 太 | □ |
| | □ | □ |

土坑SK—六三〇八

（1）
・「召 壬生直得足 朱雀門□□□□□□□□
片野連嶋村 子身陵比□□□□□□□□
〔方カ〕□□□□□□□□
白



平城宮調査位置図